

<特別活動部会>

I 研究主題

「自主的、実践的な態度の育成を図る指導の充実と評価方法の工夫・改善」

II 研究の概要

特別活動においては、望ましい集団生活を築いていくために生徒相互が協力し合って活動の目標を設定したり、自分の役割や責任を遂行したりするとともに、生徒自らが直面している諸課題への対応や解決の方法を集団場面を通じて実践的、体験的に学ぶ活動が行われる。

そこで、私たちは、望ましい集団生活とは、次の3つの活動であるととらえた。

学級学校における生活上の諸課題の解決

生徒一人一人が学級や学校の一員としての自覚に基づき協力して解決していこうとする自主的・実践的な活動を工夫する。

学校における多様な集団の生活の向上

学校における多様な集団には目標があり、その目標を達成するためには、各自が責任を果たし、お互いに協力し合って集団の生活の向上を図る。

学級内の組織づくりや仕事の分担処理

教師の適切な指導・援助の下に、学級としての努力目標、組織をつくる必要性やねらい、活動内容や方法などを十分理解し、生徒自らの創意によって編成する。

このような集団場面を通じての、生徒一人一人の実践的、体験的な活動を通して、育成された集団に寄与する態度は、自ら考え判断し、望ましい行動を選択・決定していくための基礎となるものとする。

以上のことから、特別活動部会においては、学級や学校の生活の充実と向上に関する活動に焦点を絞り、自主的、実践的な態度の育成を図る指導の充実と評価方法の工夫・改善を開発した。

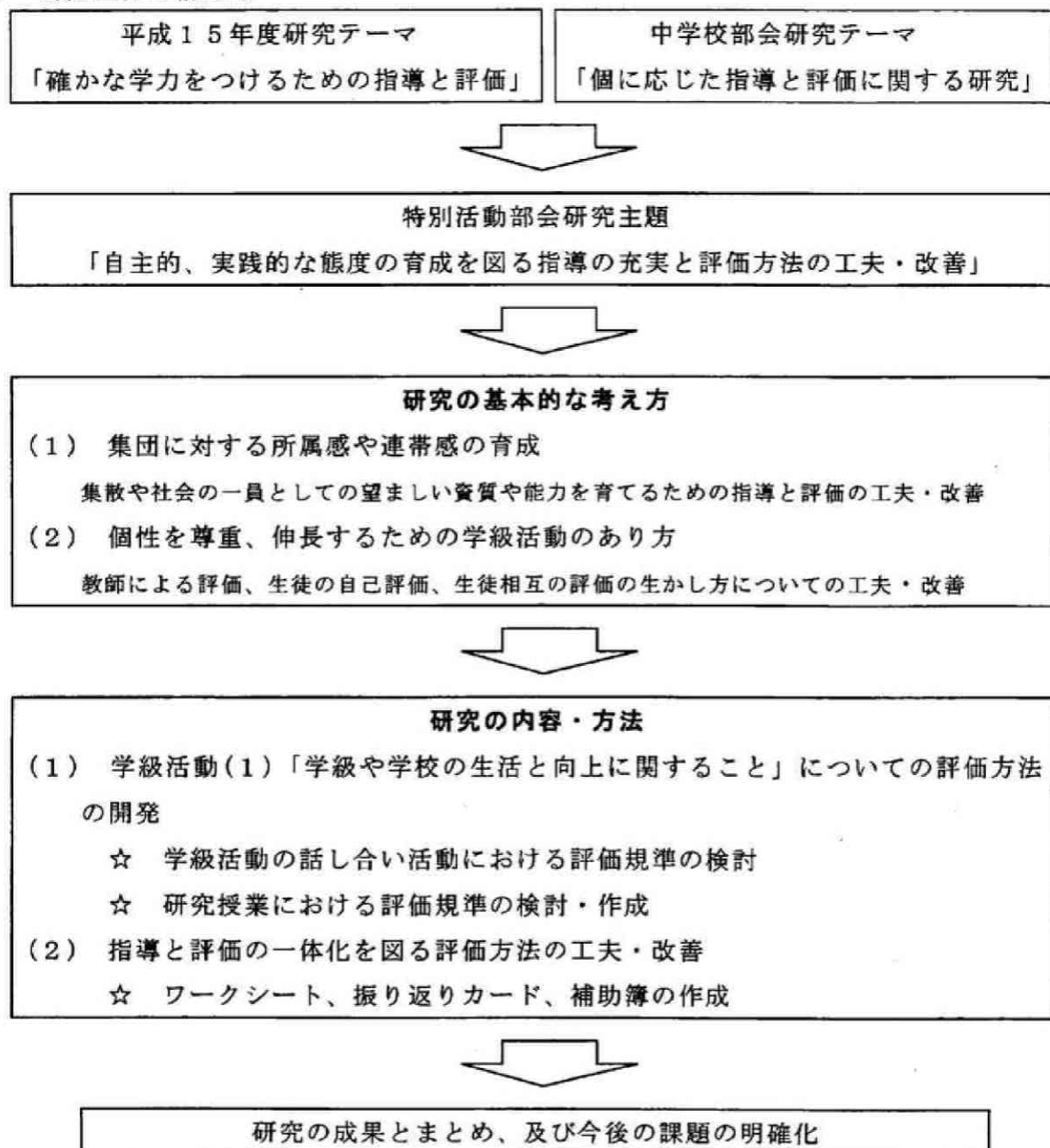
Ⅲ 研究の内容

1 研究の基本的な考え方

研究に際して、生徒が学級や学校生活の充実と向上を図るためには、学級の成員が互いの個性を尊重し合い、学級における自らの役割を分担することや協力し合う活動が必要であると考えられる。このような活動を通して自分の学級集団への所属感が高まり、実践を通して協力することの大切さや、責任ある行動をとることの必要性、友情の素晴らしさなどを体得することができる。また、活動ごとに一人一人の個性を尊重し、個に応じた指導を充実するとともに、併せて適切な評価を行うことにより、生徒は自分の果たした役割に対する責任と喜びを感じ、よりよい学級生活をおくるための意欲にもつながる。

そこで、本部会においては話し合い活動を中心とした授業と評価について以下に示す。

2 研究全体の構想図



3 学級活動に関する評価規準

(1) 学級活動(1)「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級内の組織づくりや仕事の分担処理など、学級や学校の生活の充実と向上を目指し、他の生徒と協力して、意欲的に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自己の役割を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、学級や学校生活上の諸課題などの解決について考え、判断している。	話し合いや係の活動などで自己の考えを的確に表現し、学級や学校の生活上の諸問題を解決する方法や仕事を分担処理する技能などを身につけている。	学級内の組織づくりや仕事の分担処理、学校における多様な集団生活の向上などの方法を知り、学校生活の充実と向上を図る方法を理解している。

(2) 話し合い活動を中心とした本研究の授業における評価規準

第2次の授業の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級目標を検討することを通じて、学級での生活の充実と向上を目指し、他の生徒と協力して意欲的に取り組もうとしている。	他の生徒の意見を尊重しながら、どのような学級にしたいかを考え、自分としてできることを自覚している。	話し合いで自分の考えを的確に表現し、学級での諸問題を解決する方法を身につけている。	学級内には多様な意見や考えがあることに気づく。

第3次の授業の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級生活の充実と向上を目指し、どのような学級にしたいか、他の生徒と協力して意欲的に取り組もうとしている。	他の生徒の意見を尊重しながら、自己の役割を自覚し、どのような学級にしたいかを考え、判断している。	話し合いで自分の考えを的確に表現し、学級での諸問題を解決する方法を身につけている。	学級生活の充実と向上を図る方法を理解している。

3 指導と評価の一体化を図る評価方法の工夫・改善

生徒一人一人の意欲を喚起し、自らのよさに気づかせるような評価、また、生徒のよさ、意欲、努力を多面的に評価することが重要であると考え、ワークシート、振り返りカード、評価補助簿の工夫と活用方法について検討した。

<ワークシート>

生徒一人一人の考え、話し合いへの取り組みなど、授業における生徒の活動の状況を把握することができ、評価につながるものになるよう工夫し作成した。

<振り返りカード>

活動内容にそった自己評価ができるように観点別項目に即して評価規準を設定した。これにより、教師が生徒を観点別に評価できると考えた。

<評価補助簿>

教師が一人一人の生徒について評価をしやすいように、座席表を使用し、記号などで簡単に記入できるよう工夫し作成した。

IV 指導事例

1 指導単元 「学級生活の見直し」

2 単元設定の理由

本研究においては、学校や学年の別なく、あらゆる学校、あらゆる学年で活用できる汎用性のあることを最大のテーマとした。「学級生活の見直し」は、上級学年に進行した際の学級開きにおける学級目標づくり、大きな行事の前後における目標の設定や反省、生徒会活動の前後期の移行期における目標の見直しなど、1年間の学級活動のどの時期においても活用できる題材であると考え、本主題を設定した。

3 指導計画

第1次…1学期ならびに前期の振り返り（ワークシートを用いて）

第2次…個人の振り返りと自分たちの目指すクラス像の確認 → 9月18日実施

第3次…学級目標に近づくための2学期のクラス目標の設定 → 11月10日実施

4 指導課程

(1)第1次

この指導の最初の段階においては、ワークシートを作成し、生徒は「学級目標に近づくために自分ががんばったことは何か」、「自分が理想とするクラスはどのようなクラスか」について記入した。

ここでは、第1次としてあるが、この作業については、朝や帰りの短学活でもできることであり、あらためて1単位時間の授業を必要とするものではない。ワークシートの様式も教師一人一人が工夫できるものとする。

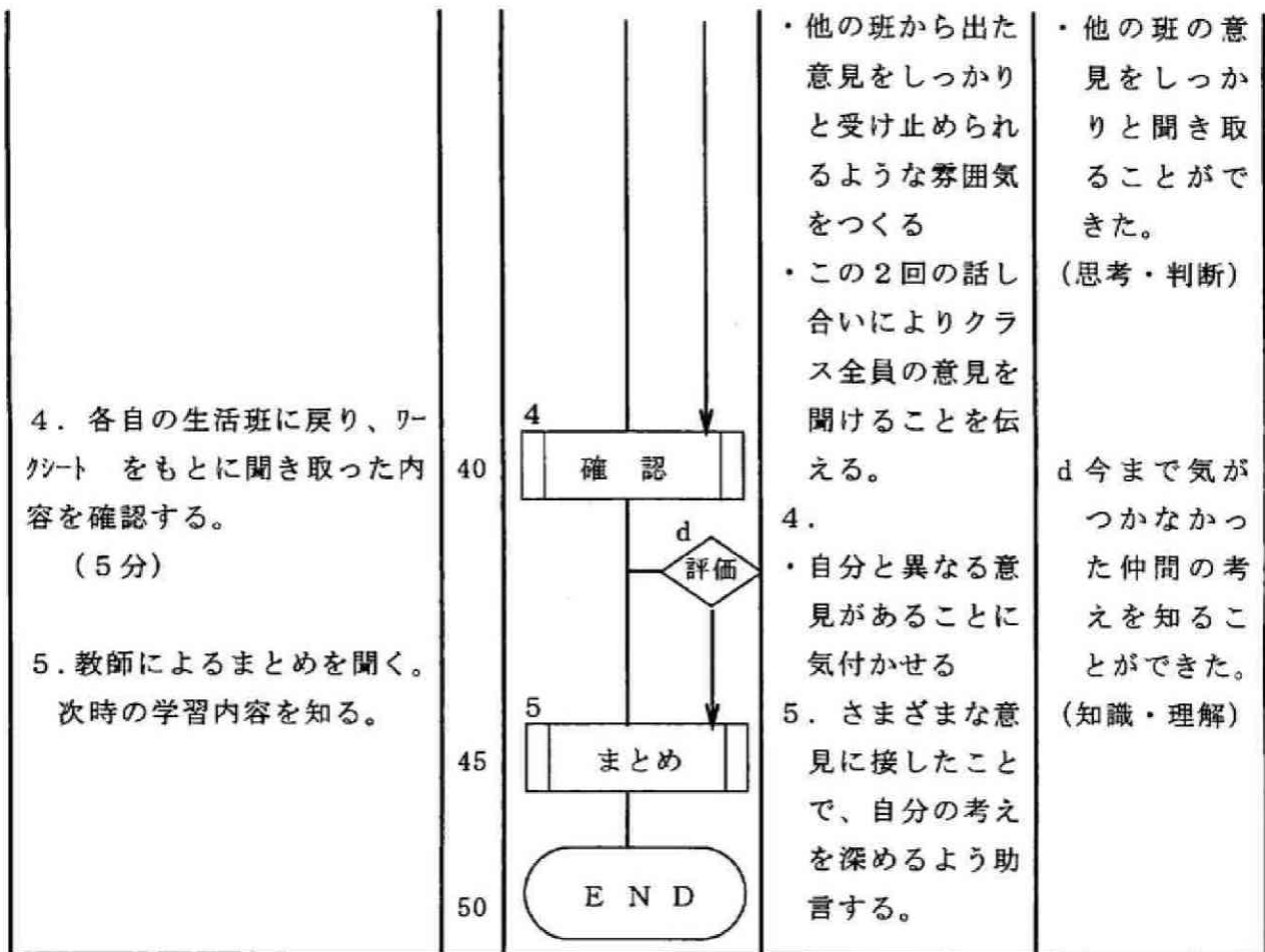
(2)展開例

第2次、第3次ともおおむね同じような授業展開である。今回重視したところは、班による話し合い活動である。特に、「日常の生活班による話し合い」と「意図的に組み直した班による話し合い」により、生徒が学級のすべての意見に触れることができるよう工夫した。

また、第2次においては個人の振り返りに焦点を当て、意見のまとめは行わなかった。

① 第2次の展開

学習内容	指導の流れ	留意点	評価
<p>0. 出欠確認 ・本時の目的を知る</p> <p>1. ワークシート配布 質問項目1「学級目標を踏まえて自分は何を頑張れたか。」 質問項目2「2学期はどのような学級にしたいか。」が記入されていることを確認する。</p> <p>2. 日常の生活班で、「どのような学級にしたいか」という、各自の考えを発表しあい、ワークシートに記入する。 (10分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>f a 5班 c d b 3班 e d 1班 a b</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>f g 6班 b c d 4班 d e f 2班 a b</p> </div> </div> <p>3. 班を替え、各班で出てきた意見を聞き合い、ワークシートにメモを取る。(20分)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1a・2e・3e 4e・5e・6e</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1c・2c・3c 4c・5c・6c</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1a・2a・3a 4a・5a・6a</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>1f・2f・3f 4f・5f・6f 6g</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1d・2d・3d 4d・4g・5d</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1b・2b・3b 4b・5b・6b</p> </div> </div> <p>※ 各班とも男女同数になり、各班から必ず1名がいるようになるように班づくりをする。</p>	<pre> graph TD Start([START]) --> Step1[5 願いを探る] Step1 --> EvalA{a 評価} EvalA --> Step2[10 発表1] Step2 --> EvalB{b 評価} EvalB --> Step3[20 発表2] Step3 --> EvalC{c 評価} </pre>	<ul style="list-style-type: none"> ・始業前に学級委員を通じてワークシートを配布しておく。 1. ワークシートで記入が不十分なところがあれば記入させる。 2. <ul style="list-style-type: none"> ・他人の意見に対して、否定したり批判したりさせない。 ・意見に対する質問は可とする。 ・積極的に話し合いに参加できない生徒に指導、助言する。 ・話題がそれた班があったら、授業を止めても軌道修正する ・話し合いができない班には、教師が入る。 3. <ul style="list-style-type: none"> ・移動する場所を指示をする。 ・発表の順番を指示する。 ・自分の班から出た意見をわかりやすく伝えるよう助言する。 	<p>a 学級目標をふまえて、自分は何をがんばれたか、振り返ることができた。 (関心・意欲・態度)</p> <p>b 班の話し合いにおいて、自分の考えをはっきりと話すことができた。 (思考・判断) (技能・表現)</p> <p>c 自分の班の意見を他の班の人たちにはっきりと伝えるように話すことができた。 (技能・表現)</p>



② 第2次の評価の内容と方法

ア 内容

- ・学級目標を検討することを通して、学級での生活の充実と向上を目指し、他の生徒と協力して意欲的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・他の生徒の意見を尊重しながら、どのような学級にしたいのかを考え、自分としてできることを自覚している。(思考・判断)
- ・話し合いで自分の考えを的確に表現し、その話し合いの内容を他の生徒に伝えている。(技能・表現)
- ・学級内には多様な意見や考えがあることに気づく。(知識・理解)

イ 方法

資料 \ 観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ワークシート	○	○		
観察	○	○	○	
振り返りカード	○	○	○	○

(3) 資料

① 2次のふり返しカード

本日の振り返りカード

1年 組 番 氏名

今日の授業はどうでしたか。授業の内容や参加態度を振り返ってみましょう。
Aは良くできた・Bはだいたいできた・Cはできなかった・を意味します。当てはまるものに○をつけてください。

学級目標をふまえて自分は何を頑張れましたか振り返ることができましたか。 (関心・意欲・態度)	A	B	C
班の話し合いにおいて、自分の考えをはっきりと話すことができましたか。 (思考・判断) (技能・表現)	A	B	C
自分の意見を他の班の人たちにはっきりと伝えるように話すことができましたか。 (技能・表現)	A	B	C
他の班の意見をしっかりと聞き取ることができましたか。 (思考・判断)	A	B	C
今まで気がつかなかった仲間の考えを知ることができましたか。 (知識・理解)	A	B	C

②補助簿

補 助 簿

年 組 月 日 () 校時

教 卓

氏名	a	b	c	c	氏名	a	b	c	c	氏名	a	b	c	c	氏名	a	b	c	c	

3 班

2 班

1 班

評 価 項 目・基 準	評 価
a、(関心・意欲・態度) A、学級目標をふまえて自分は何を頑張れたか、生活面や学習面などにおいて、複数の具体例を記入できた。 B、学級目標をふまえて自分は何を頑張れたか記入できた。	A・・・十分達成 B・・・おおむね達成
b、(思考・判断) (技能・表現) A、班の話し合いにおいて、自分の考えや意見を他者に分かりやすく的確に伝えていた。 B、班の話し合いにおいて自分の考えや意見を他者に伝えていた。	C・・・Bに達成しない
c、(技能・表現) A、自分の班で話し合った内容を他の班の人たちに責任を持って、分かりやすく的確に伝えることができていた。 B、自分の班で話し合った内容を他の班の人たちに責任を持って伝えることができていた。	
c、(思考・判断) A、進んで他者の考えや意見に耳を傾け、それぞれの意見を尊重しながら正確に聞き取りができていた。 B、他者の考えや意見を尊重しながら、聞き取りができていた。	

注*表中の a、b、c は指導案の流れの中での評価項目と対応
*表中の A・B・C は観点別評価

学級活動ワークシート1

1年1組 番氏名 _____

1組のクラス目標



みんなで仲良く
色々な事に
挑戦しよう

4月からみんなで決めたクラス目標のもとで、今まで生活してきました。特に各行事に向けて、それぞれ一生懸命に取り組んできたと思います。

しかし、これからは大きな行事が無くなってしまいます。もしかしたら何に向けて協力したい挑戦していったらいいのかな…と…目標を見失ってしまわないか心配です。

そこで、今までの自分やクラスを振り返り、これからも1組をより良いものにするために、をみんなで、その手だてを考えていきましょう。

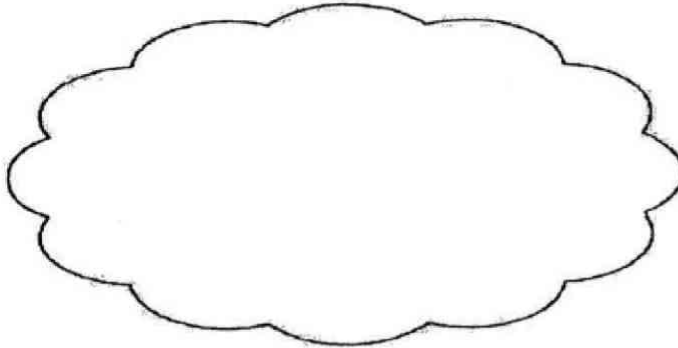
1. 中学校に入学してから今までの自分を振り返り、思いやりクラス目標に近づくために頑張ったことを書いてみよう。

「みんなで仲良く」について

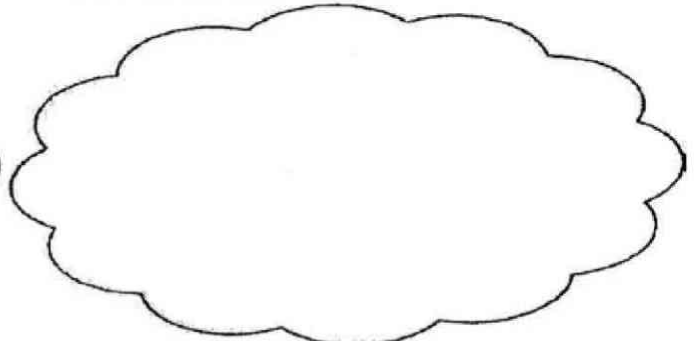
「色々な事に挑戦しよう」について

2. これからの1組を、どんなクラスにしたいか、思いますか？
自分が理想とするクラスを書いてみよう

3. 班での友達の発表内容をメモしよう



4. 他の班から出された「理想とするクラス」を書きとめておこう。

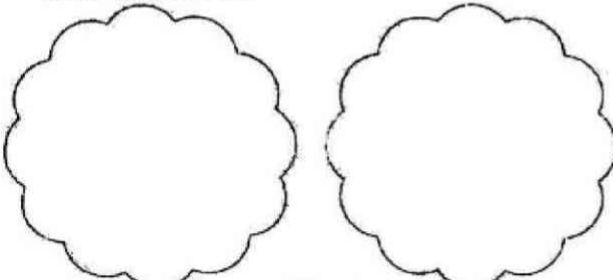


学級活動ワークシート2

1年1組 番氏名 _____

1. 理想とするクラスにするためにどうしたらいいか、具体的な方法を班で話し合おう。

2. 他の班から出された意見を書きとめておこう。



3. 理想とするクラスにするための生活目標を書こう。

朝の時間ではどうするか

昼食の時間ではどうするか

放課後の時間ではどうするか



学級活動ワークシート2

1年1組 氏名

理想のクラスづくりのための手だてを考え、班での話し合いができていたか。

理想とするクラスにするためにはどうしたらいいか、具体的な方法を班で話し合おう。

2. 他の班から出された意見を書き

班で話し合った内容を他のに伝え、他の班聞き取れたかの意見が聞き取れたか

・具体的に行動できるように(自分から)
 ・友達のことを良く考えて行動かする。
 ・日常生活をちゃんと送る。
 ・授業に集中する。
 ・みんなとちゃんと協力する。

・おりのままの自分
 ・けんかをしたら原因を考えて話し合う。
 ・先生の気持ちも考える。
 ・よけいな言動をしない。
 ・自分がつられてやめることはしない。
 ・友達のことを考える。
 ・努力する・口ではなく行動で示す。
 ・友達どうしで注意する。
 ・一人一人行動かする。・いいたいことは言う。
 ・おれかが困っていたらたづねる。
 ・うるさいときは注意する。
 ・お互い声をうしろ向きに聞こえづける。
 ・男女が話し合いなく話し合う。
 ・たれがたれしない。

3. 理想とするクラスにするための生活目標を書こう。

学習面ではどうするか

・授業では積極的に先生の話をして聞く。

生活面ではどうするか

・一人一人が自主的に行動かする。
 ・おれが話さない。
 ・いいたいことは言う。
 ・授業生活をちゃんとやる。
 ・口ではなく行動で示す。
 ・おれが困ったことを言う。
 ・一人一人が日常生活をし、かつし、積極的に話しかける。

友達との関係ではどうするか

・けんかをしたら原因を確かめ、おれが話し合おう。
 ・友達のことを考えて自分がつられてやめることはしない。

理想のクラスづくりのために心がけようと思うことを話し合えたか。



V 研究のまとめ

本年度の研究活動は、学級活動の基礎となる、学級や学校の生活の充実と向上に関することが最も重要であると考え、評価方法の工夫・開発に取り組んだ。学級や学校生活の充実と向上には生徒の自発的な話し合いによる解決が重要である。その話し合い活動を充実させるためには、事前に「話し合いのルール」についての指導が必要である。参考まで生徒に配布する資料プリントの例を示す。

『話し合い』は『聞き合い』でもあり、『話し合い』では話題について全員でじっくり考えることが大切なことです。そのためにも、一人一人の発言を『じっくり味わう』ことによって、発言した人の考えや気持ちをくみとりながら、自分の考えをより広く深めていくことができるのです。

話し合いのルール

○司会の進行で話し合いを進める。 ○人の話を最後まで聞く。 ○人の意見や考えを尊重する。(人の意見や考えを批判しない) ○意見には反対しても、その人自身には温かい気持ちをもつ。 ○その他『今日の話し合いの場だけのルール』を加えることもある。

1 研究の成果

- (1) 「日常の生活班」による話し合い活動に「意図的に組み直した班」による話し合い活動を加えたことにより、一層話し合い活動が活発になり、その内容を深めることができた。また、生徒一人一人が話を人に伝える、人の話を聞いてくるという役割をもたせたことにより、責任を果たそうとする意欲や態度につながった。評価が(C)の段階にあって、集団活動への関心・意欲・態度が十分でない生徒への手だてとしても、『話し合い』活動の充実は極めて重要である。
- (2) 学級活動の話し合い活動における授業内容の評価規準を作成し、それに基づいたワークシート・振り返りカード・教師による観察で、観点別評価ができるようになった。ワークシートは「日常の学級生活」を振り返るものを作成し、生徒は自らの活動状況を振り返ることができた。振り返りカードは活動内容に沿って自己評価できるよう観点別項目に則して評価規準を設定した。これにより、教師が生徒を観点別に評価でき、生徒自身も自分のことを観点別に評価するようになった。
- (3) 授業観察補助簿を工夫・改善することで、複数の教師によって観点を分担して評価することもできるようになった。
- (4) ワークシート・振り返りカードから授業中、積極的に活動できなかった生徒・班を見つけ出すことができ、事後の指導に活用できる。

2 今後の課題

- (1) 話し合い活動を深化させていくためには、小学校・中学校が連携して教師が指導し、生徒に多様な話し合いの場を設定し、学級活動から生徒会活動、学校行事へと発展させることが課題と考える。
- (2) 研究の成果(4)の事後の指導において、例えば、話し合い活動に参加できなかった生徒・班へどう具体的に手だてするのは今後の課題とする。